

今後の里海づくりのあり方に関する提言（概要版）

（2025年3月 今後の里海づくりのあり方検討会）

＜里海を取り巻く経緯と課題＞ ※里海とは「人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域」

- ◆ 高度経済成長期に、開発による**自然環境の劣化や消失、汚濁負荷の増大、水質の悪化**
- ◆ 水質保全を目的とした**排水規制等の施策**による水質の改善を経て**豊かな海（里海）づくりへ**
- ◆ 令和4年度から**令和の里海づくりモデル事業**により、現状の把握や課題、事例の収集と地域支援を実施
- ◆ 社会構造や価値観の変化、気候変動、場の消失等を踏まえた複数施策への**統合的アプローチ**の必要性

➡➡➡これらの状況を踏まえ**環境省が取り組むべき「今後の里海づくりのあり方」**を検討

環境省が目指すべき「里海づくり」の理念と指針

- 1) 良好な海域環境の**保全・再生・創出**
- 2) 地域資源の適切な**利活用による保全と好循環の形成**
- 3) 地域の歴史、伝統、文化等や自主性を重んじた**多様な主体の参加と連携**

提言1：良好な里海の保全・再生・創出

- ・ 良好な海洋環境の「保全」、劣化した場の「再生」、失われた場の「創出」
- ・ 森里川海の連環
- ・ 科学技術的、社会経済的にも実現可能かつ具体的、定量的な目標設定
- ・ 自然の変動やかく乱を受けても自律的に回復、存続できる
- ・ 海域環境や生態学に関する調査とモニタリング、アセスメントによる評価と順応的管理
- ・ 沿岸域の地域づくりの一環として取り組む
- ・ ウェルビーイング/高い生活の質にも貢献
- ・ 研究分野の進展と成果の実装

提言2：里海における資源の利活用と好循環の形成

- ・ 一般の市民が日々の生活のなかで里海づくりに触れ、参加できる機会を通じた生活での利活用
- ・ 地域や国内外を問わずレクリエーション、アクティビティ等の観光での利活用
- ・ 地域の歴史や伝統文化に配慮した農林漁業での利活用
- ・ 海洋リテラシーの充実をはかる海洋教育の実践を通じた海洋教育での利活用

提言3：地域の自主性を重んじた多様な主体の参加と連携

- ・ 多様な主体者との連携のためのネットワークの構築と支援
- ・ 関係省庁、関係団体とのシナジー発揮、連携の強化

モデル構築による**地域の取組支援**のみでなく、**科学的知見の充実、情報共有**の場づくりなどを通じて、
戦略的に「令和の里海づくり」を推進

参考：里海づくりの事例（ヒロメ養殖による環境保全と地域振興の循環モデル形成）



里海づくりの概要

令和5年度「令和の里海づくり」モデル事業（実施団体：新庄漁業協同組合）

- 新庄漁協は内湾域での漁業が中心の小規模な組合であり、**漁獲量の減少や高齢化による担い手不足が課題**。
- 近年、冬場の漁業者の収入源として重要な海藻ヒロメの養殖が不調であったため、養殖手法や区画の再検討、関連商品開発に取り組んでいる。
- また、水産資源や生物多様性豊かな海づくりに向けて、新庄の沿岸域の特性を把握するため、専門家や研究機関とも連携し、**藻場の分布や底生生物の調査を実施し、再生策を検討**。
- これらの知見を、**エコツアーの開発や、自然共生サイトの認定、Jブルークレジットの取得にも活用**。
- さらに、これらの実施にあたり、**地域内外の多様な連携を構築**することで、実行力を高めており、さらなる展開に向け奮闘中。



ヒロメの養殖の拡大と藻場造成



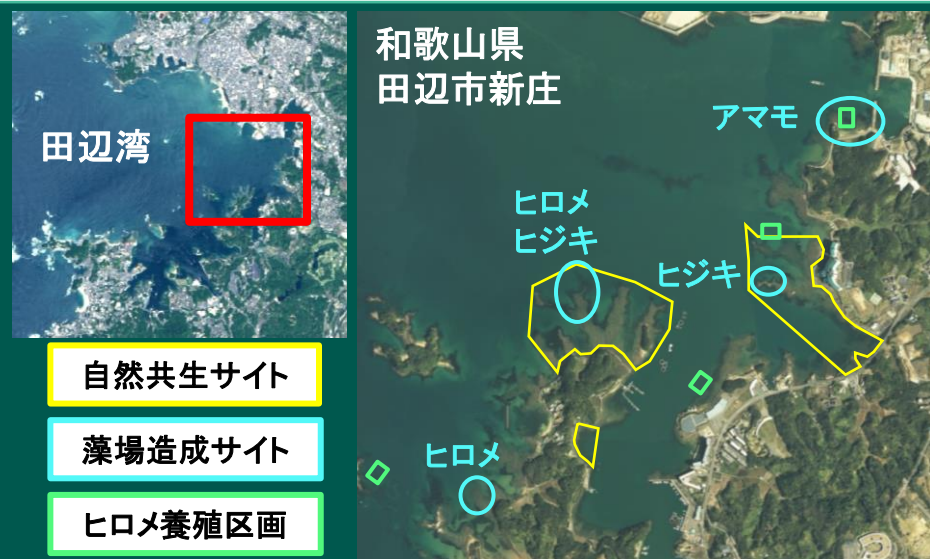
保全活動の体験



啓発ツール作成



2024年後期自然共生サイト認定



今後に向けて

- 里海づくりの取組を通じて地域内での**認知度が向上し、様々な連携が生じた**。令和6年には**トヨフジ海運株式会社から保全活動の支援が得られ、自然共生サイトの認定も取得した**。また、ブルーカーボンの実証実験等で**連携を希望する企業も現れている**。
- 大きな課題である担い手不足を解消するためにも、保全活動やエコツアーによる収益化など、**漁業以外の活動も含めた持続可能な海域利用を目指している**。